

東山区ボランティアセンターだより
現在活躍中!ボランティア活動紹介

視覚障害者支援ボランティア「スキップ」

2007年4月、ボランティア養成講座の修了生で「自分たちの支援で、困っている人たちを軽やかにしたい」との思いで結成しました。

洋服のボタン付けや読み書き、新聞広告の音読など、目に不自由を感じている方のちょっとした困りごとのお手伝いをしています。熱い思いで始めた活動はもうすぐ13年目を迎えます。

気軽にお越しください!

●文字が見えづらい、書きづらい…でお困りの方

●ボランティア活動に興味のある方

相談者と話し合いながら、できる範囲でのお手伝いを行っています。

活動日：毎月第2火曜日 10時～16時
場所：やすらぎ・ふれあい館
(東山五条/五条坂バス停すぐ)

利用料：無料
連絡先：東山区社会福祉協議会
075-551-4849

「スキップ」には、皆さんと手をとりあって一歩一歩前進していこうという思いが込められています。



ゆっくりお茶したりお話ししたり。月1回のこの日は、朝からわくわくする大事な居場所になっています。



“おおきに”の言葉がやる気の源になって、繕い物のお手伝いもはかどります。

利用者&ボランティアの声



視覚障害者東山グループ代表
高瀬さん

「スキップあつての視覚障害者グループです。もっと多くの人に利用してほしいです」



「スキップ」代表
横田さん

「気軽に多くの方に来ていただいて、どんなことでも手助けをさせてもらいたいです」

入って安心! ボランティア活動をする人のための保険

安全かつ安心してボランティア活動に取り組めるよう、ボランティア活動保険に加入することをおすすめします。

- 年間保険料：250円～ 活動に合わせてプランを選択
※災害時のボランティア活動には別途保険加入が必要となります。
- 加入期間：保険料振込日の翌日～当該年度の3月31日までが保険期間となります。(年度単位)

ボランティア団体等が行う非営利で公益性な行事や活動に掛ける保険もあります。詳しくは東山区社会福祉協議会 TEL. 075-551-4849 までお尋ねください。



地域での暮らしを守る取組のいろいろ ～社会福祉協議会のセーフティネット事業～

地域あんしん支援員設置事業

お一人暮らし、老親と未就労の子の世帯などで、ごみの堆積・ひきこもり・生活の困窮など、いくつもの絡みあった問題を抱える世帯で、必要な支援に結びつけるための事業です。

「誰の助けもいらん!」、「このままでいいから放っといて!」と言われる方に寄り添って気持ちを解きほぐし、問題解決の糸口を行政や地域の方々と一緒に見つけています。

身近に気になる方がおられたら、社会福祉協議会へご相談ください。

日常生活自立支援事業
～生活支援員募集～

高齢者の方や障害者の方が、住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、福祉サービスの利用手続き、生活に必要な金銭管理、郵便物等の書類確認などをサポートする事業です。実際にサポートを担う「生活支援員」を募集しています。

条件：東山区にお住いの30歳～74歳の方
1回1時間程度のサポートを
月2回程度できる方

生活福祉資金貸付制度・
住居確保給付金制度(相談窓口)

「生活福祉資金貸付制度」は、低所得者・身体障害者・高齢者の世帯が一時的にお金が必要になった場合や、失業中の方が安心して就職活動を行う場合の生活費を貸付けます。

「住居確保給付金制度」では、失業中の方で住居を失う恐れのある方、または失業により住居を喪失している方への家賃支援を給付しています。貸付けや給付には一定の要件と審査があり、社会福祉協議会はこれらの相談窓口になっています。(事前予約制)

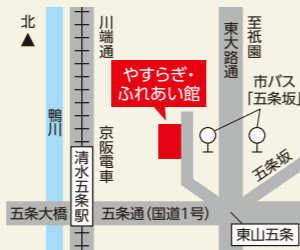
社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会

〒605-0863

京都市東山区五条通大和路東入5丁目
梅林町576-5 「やすらぎ・ふれあい館」内

TEL.075-551-4849 FAX.075-551-4858

ホームページ <https://higashiyama-shakyo-kyoto.jimdo.com/>



社会福祉協議会(社協)とは?

社会福祉協議会(通称:しゃきょう)は、住民主体の地域福祉活動を推進することを目的とした民間団体です。地域住民・ボランティア・当事者の方々、社会福祉関係者、社会福祉施設など多くの参加・協力のもと、地域のだれもが「住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざし、さまざまな活動をおこなっています。

みんなの街「東山区」の福祉情報をお届けします!

題字/真神仁宏氏

広報誌

ひがしやま

2020年2月
VOL.

21

編集・発行/
社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会

この広報誌は、共同募金配分金を財源として発行しています

地域とつながる、
幸せな経験!

—地域と福祉施設のつながりづくり—

皆さんがお住いの東山区。

区内には社会福祉施設が51か所もあります(区社協把握分)。

だれもが豊かに生活が送れるような地域をつくるために、

地域と施設はどういう風に手が結べるのだろうか、

なぜ手を結ばなければいけないのか、地域と施設の方々と話しあいました。



東山区地域福祉シンポジウムにて、地域と施設の現状について、いろいろな意見が交わされました。

実践ればと

たいしょうがくえん
大照学園
てしがはら
勅使河原さん



Q. 大照学園はどんなところですか?

A. 知恩院塔頭の境内にある、障がい者福祉施設です。

生活するための入所施設と、働くための就労施設があります。

Q. 地域とはどんな交流をしているのですか?

A. 清掃活動や、他の施設に利用者さんがボランティアに行くなどがあります。

かつては商店街にあるサロンでされていたイベントに利用者さんが参加して楽しんでいたりしましたが、今は職員が不足していて地域の方との交流活動がだんだんと難しくなっています。

Q. これからの展望を教えてください!

A. 施設の中にとどまらず、地域の方と接することは、利用者さんの力を伸ばし、生きいき暮らしていくためにも、とても大切なことなんです。

安全管理のためには外部から施設に入ってもらうことに慎重になりがちです

が、地域の方との繋がりをつくるためには、私たちが地域に向いたり、私たちの施設の夏祭りにお越しいただいたりという形で、何かしていければと思っています。施設もご近所の一つ、と思っていたら嬉しいです。



観光客の多い白川 華頂坂付近で清掃活動をしているところ。ゴミを集めることで地域に貢献できればということで始めました。



施設の利用者さんが、老人デイサービスセンターでボランティア活動をしているところ。その職員さんやお年寄りの方と接する中で、本当に生きいきと活動されるようになりました。就職も決まりましたのですが「仕事が決まったけどこのボランティアは続けたい!」と。

地域とつながる、幸せな経験! ー地域と福祉施設のつながりづくりー



毎年、地域の保育園から訪問があり、施設のご利用者と園児とで一緒に楽しい時間を過ごしています。



年に一度の洛東園まつり。洛東園のすべての職員が、地域の皆さんと交流する機会となっています。

まつりでは、お客様、アトラクションの出演者、模擬店出店者など、様々な形で地域の皆さんの支援をいただいています。



しゅうどうらくとうえん
修道洛東園
田中施設長



浴後のドライヤーなどを通して話し相手になるボランティアさんがたくさん来ていただきました。

小規模多機能サービスもみじの家では、開設時から市内の一員として温かく迎え入れていただきました。組長を務め、行事にはご利用者とできるだけ参加して市内の方と交流しています。

特養・養護等の入所施設に地域のお祭りのお御輿が立ち寄ってくださり、入所者はそれをながめて雰囲気を楽しまれています。地域の方々と歓談や、写真撮影など交流を図っています。

ご紹介した地域との交流はほんの一部です。洛東園の各事業所は多岐にわたり、地域のたくさんの皆さまに支えていただいています。

Q. これからの展望を教えてください!

A. 4年前から「洛東園行事委員会」を設置して、職員が各学区のお祭りなどへ手伝いに参加させていただいています。職員には「地域が職場ですよ」とよく伝えていきます。私自身が、「この頃見ないけど元気だった?」とか、「やせたんちゃう?」など地域の方から声をかけていただけます。本当に地域の方に育てていただきました。この幸せな経験を今の職員にも味合わせてあげたい、そして力にしてもらいたい、と思っています。若い職員でも地域の方と交流できるよう、行事に地域の方をお招きするだけで

なく、介護や認知症の勉強会などを通じて行き来しやすい関係を作っていければと思っています。

シンポジウムに
当日参加された方々の声

地域の住民さんから

○子どもや孫が卒業すると情報が少なくなります。また小学校がなくなったことで子どもとのかかわりが減っています。
○お互いに顔見知りになることで、いろいろな交流がしやすくなると思います。
○施設の人員が足りないという現状も重いですね…。

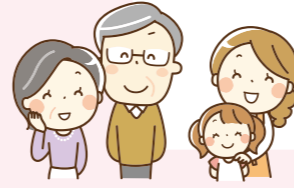
施設の職員さんから

○地域の方との交流で子どもたちが楽しそうにしているのを見ると、交流は本当に大事だと思います。
○施設について理解して下さる方がもっと増えてほしいと思います。
○お互いに交流のやりにくさを感じていたのだとわかりました。

まとめ

今回をきっかけに、まずはお互いの情報交換を。学び合うような交流の場を通して顔見知りになることで、施設に入っている人も、地域の方も、心がちょっとほっとするような場が生まれてくるのではないのでしょうか。

一度覗いてみませんか? 東山区の“居場所”



『東山区 高齢者おでかけマップ』から
東山区にある“居場所”を一部ご紹介します!



その1

お寺も居場所、心のよりどころ

「お寺朝カフェ」 & 「金剛寺介護者カフェ」

● お寺朝カフェ

「住職と共に勤行体験(木魚念仏)」や伝統工芸の紹介など「遊びと学びのワークショップ」で新たな交流の輪を広げます。



● 金剛寺介護者カフェ

お寺ならではの空間で、人生の最期にどう過ごしたいか、ゲームで楽しみながら考えているところです。他にも、「介護」をテーマにそれぞれの思いを話し合ったりしています。



心のモヤモヤを話す事で放してみませんか。どちらも、どなたでもお気軽にご参加ください。

日時：
お寺朝カフェ…毎月第3水曜日 7～10時
金剛寺介護者カフェ
…奇数月第2水曜日 13時半～16時
場所：金剛寺
三条通白川橋東入五軒町124
(東山三条バス停徒歩5分
地下鉄東山駅の近く)
参加費：無料 事前申し込み：不要
連絡先：075-771-2442
携帯電話：090-2355-6058

その2

誰もが否定されることなく寄り添い合う

多世代交流基地「うっかり堂」

座卓と本棚のある畳の部屋に木のおもちゃや遊具もある昭和初期の町家。子育て中の若いお母さんや高齢の方など、いろいろな世代の方が来られて、大家族のような雰囲気の中で楽しい時間を過ごされています。

「うっかり堂」の名前は、何事にも「うっかりしていて大丈夫」という気楽な思いから付いたそうです。

いろんな世代が集まって「うっかり事」も受け入れてもらえる居場所に行ってみませんか。

日時：毎週火曜日 8時半～14時
場所：大和路松原下ル薬師町233
(市バス「清水道」から徒歩10分)
参加費：無料
連絡先：070-1781-0642



居場所づくりの活動を支援します!

いくつになっても「出かけて」「人と会って」「おしゃべりし、交流すること」は、高齢者が地域でお健やかに過ごすためにとても大切です。

区内では「居場所」が少しずつ増え続け、今では25カ所あります。

京都市地域支え合い活動創出事業では、居場所の運営を支援するため、地域支え合い活動創出コーディネーター※が、運営者を対象とした「情報交換会」を毎年開催しています。運営者同士

で、お互いの活動情報や運営に役立つ工夫や秘訣について話し合っています。

また、多くの方に「居場所」を知ってもらうため、足を運んでいただけるよう、運営日時や場所を掲載した『高齢者おでかけマップ』を作成しています。

「居場所」に関するご相談は、ぜひコーディネーターまでご連絡ください。

※地域支え合い活動創出
コーディネーターとは
京都市が、地域で高齢者を支えていくために必

要な生活支援サービスの創出や担い手の養成、ネットワークの構築を目的として、各区社会福祉協議会に設置しているコーディネーターです。



情報交換会

